年間授業計画　新様式例

高等学校 令和５年度（２学年用） 教科　国語　　科目　論理国語

教　科：　国語　　科　目：　論理国語　　単位数：　1　単位

対象学年組：第　2 学年　 1 組～　 8 組

使用教科書：（ 大修館書店　論理国語　　）

教科　国語　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができる。

【思考力、判断力、表現力等】他者との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深め，言語感覚を磨き，我が国の言語文化を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目　論理国語　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	単元「世界を広げる『批評』の言葉」 【知識及び技能】 筆者の主張とその前提や反証などについて理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 主張を支える根拠や結論を導く論拠をとらえられるよう批判的な視点を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 内容に関して自らの考えをもち伝えようとする態度を養う。	・筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえる。 ・これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。		○	○	・文や文章を効果的に組み立てたり接続したりするしかたについて理解を深めている。 ・内容や構成、論理の展開をふまえながら要旨を把握している。 ・進んで筆者の主張とその根拠や論拠をとらえようとしている。	○	○	○	4
	「余白の美学」 【知識及び技能】 言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解させる。 【思考・判断・表現】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 「美」についての筆者の主張と、自分の意見を比較しようとする態度を涵養する。	・具体例の果たす役割を理解し、その意図を適切に読み取る。 ・「美」についての筆者の主張をとらえ、自分の考えを深める。	○		○	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・学習課題に沿って、具体例の役割に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
2学期	「敬語への自覚、他者への自覚」 【知識及び技能】 敬語についての知識や文法について学ばせる。 【思考力、判断力、表現力等】 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・我が国の言語文化に対しての興味・関心を抱かせる。	・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。 ・敬語や若者言葉など、言葉と社会の関係に興味をもち、考えを深める。	○	○	○	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 ・学習課題に沿って、敬語のもつ働きに注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	6
	「ミロのヴィーナス」 【知識及び技能】 言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解させる。 【思考・判断・表現】 文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価させる。 【学びに向かう力、人間性等】 本文中に使われている詩的表現に注目させ、それらが文中でどのような役割を果たしているか考えさせる。	・比喩的な表現に注意しつつ、論の展開をとらえる。 ・筆者の主張をふまえて、美しさについて、理解を深める。		○	○	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ 、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・学習課題に沿って、本文中の比喩表現に注意しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
3学期	「社会的実在としての言語・法・貨幣」 【知識・技能】 言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解させる。 【思考・判断・表現】 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 人間社会において必要不可欠な言語・法・貨幣の存在意義や関係性について考えさせる。 ・学習課題に沿って、具体的なエピソードに注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	・論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。 ・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。		○	○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題に沿って、具体的なエピソードに注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
									合計	31